

想創奏

そうそうそう

No.53



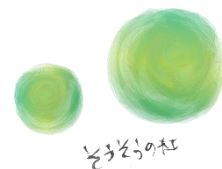
令和4年10月 発行人 荒川 輝男 編集人 出口 祐也
社会福祉法人そうそうの杜

〒536-0013 大阪市城東区鳴野東 3-2-26

Tel 06-6965-7171 / Fax 06-6167-2622 / HP <http://www.sou-sou.com/>

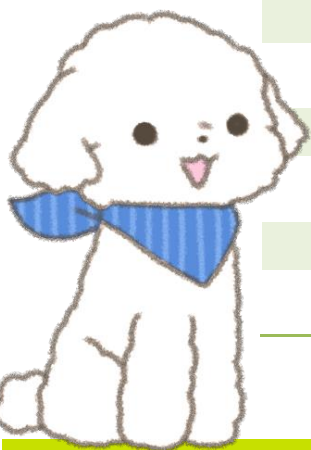
そうそうの杜

想そうそうそう創奏



No.53 Contents

- 混沌とした世界の中でアイデンティティを確立していくには
荒川 輝男 …3
- 新型コロナウイルス感染拡大 奮戦記
真頼 正施 …4
- 關宏之さんのエッセイ
關 宏之 …6
- 七夕祭り・風鈴祭り・コンサート
山川 真司 …9
- 地域の夏祭りシリーズ（今福まつり・聖賢まつり）
今福まつり・手塚 勇太 聖賢まつり・水谷 周平 …11
- 研修旅行（鎌倉・東京）
…13
- 夏の湖水浴（Prife・座座・つむぎ館） ～IN 琵琶湖～
金原 裕一郎 …20
- ミャンマー情勢 最新情報
ソウ・アウン（とことこっと） …22
- 鳴野界限から お世話になっております（第2弾）
出口 祐也 …23
- シリーズエッセイ 出会いは15センチから始まった
和田 数子 …25
- イベントポスター、配布チラシ
…26
- 寄付にご協力いただきありがとうございます
…27



新型コロナウイルス、安部問題と統一教会の問題、外へ顔を向ければロシアによるウクライナ侵攻（世界情勢についてはミャンマーやアフガニスタン、アフリカ諸国など紛争地域は数え上げればきりが無い）等、一見平和な様相は見せてはいたが常に世界のどこかで紛争が起きており、その犠牲になっている人々が数多く存在している。

そうそうの杜は、法人立ち上げ時に政治と宗教には無色透明でいくという確認をしてスタートした経緯があるが、現在の日本や世界情勢の中で、特に政治にはモノ申さざるを得ない。

日本が民主主義の手本としてきたアメリカでは、トランプの共和党に象徴されるように事実を歪曲して数の力で押し切るという、民主主義の根幹から揺るがされるようなフェイクを多くのアメリカ人が信じている、異常な事態が世界中で繰り返されるようになってきた。不気味な兆候としてイタリアの極右政権の誕生があげられる。中国の共産党独裁と日本ではあまりにも無責任な政治の中で宗教問題が表面化してきた。また、国民の多くの反対を押し切って安部元総理の国葬が強行された。

ロシアのウクライナへの侵略、安部問題から統一教会、また東京オリンピックの問題、はたまた中国やロシアの極東地域での覇権争いなどと、次から次へと人々の関心が移っていく中で、常に国家や政治家の言う正義のための犠牲者となる小さな存在、市民の命が取り残され軽んじられている。我々が絶対に忘れてはいけない、人としての尊厳が守られなければならないのである。

この目まぐるしく変化していく社会の中で圧倒的なスピードで中途半端なまま取り残されてそのうち忘れられていく。この繰り返しで日々流れていく。

法人を運営する立場で出会った課題は、直接の福祉サービス以外では、11年前の東日本大震災以来、災害等への支援やユネスコ等への募金などを行ってきた。

今重要なテーマはミャンマーの問題。これもまた、たまたまミャンマー人留学生との出会いから遠かった国がとても近い国になった。採用して1年半、彼らは一方では本国のニュースに涙しながらも介護福祉士を目指して毎日勉強に仕事に励んでいる。

その中で、一つの家族（一人の女性が法人でアルバイト就労している）との関りがあり、まさにミャンマーの混乱した状況を凝縮しているような、家族がミャンマーとロシア、タイ、日本とグローバルな時代を物語っているように引き裂かれた状態で困難に陥っている。

9月27日の時点でタイにいる民主化運動に参画していた長男が日本へ来られないかを模索している。様々な方たちから寄付を募り快く資金を提供していただき大変ありがたく思っている。1日でも早く、戦争や紛争や搾取や差別などがなくなる社会を目指して日々の小さな幸せを大事にしていきたい。

また、新型コロナウイルスの新たな発生が8月の後半にピタッと止まって大きな混乱もなくようやく日常に戻りつつあるような状況であり、今後はインフルエンザと併せて徹底した対策を講じていきたい。



新型コロナウイルス感染拡大 奮戦記

真頼 正施

2022年7月上旬、東京・大阪の感染拡大状況を新聞報道等で注視していた。いわゆる第7波の到来と、感染者数の増加のスピードについていけない自分がいた。大阪府内の感染者数でいえば、1日当たり1万人程度の増加が7月20日を境に2万人程度に倍増…それ以降は2万5千人程度で高止まりしている。検査数のキャパシティなのだろう。

そうそうの杜では、7月7日にスタッフ1名が感染した後、いずれも単発ではあるが就職している利用者（感染経路不明）や家庭内感染のスタッフがポツポツと確認された。

しかしながら、7月の半ば以降、私たちには見えないところで感染が広がっていたのである。A事業所で言葉のない利用者Bさんが陽性となり、その3日後にはA事業所内で6名の感染確認、5日後に1名、7日後に1名、8日後に3名、9日後に5名と雪だるま式に増加したのである。7月7日以降、8月19日時点での法人内感染者数の累計は、利用者36名、スタッフ30名の計66名であった。

今回の感染拡大の要因は2つ考えられる。

① スタッフ利用者の接点が複雑に絡み合うこと。

そうそうの杜の支援の特徴としては、利用者が利用する事業所、居宅介護にかかわるスタッフが

事業所の垣根を越えて地域の中で複雑にかかわりあうため、接触するスタッフ利用者は多岐にわたるのである。

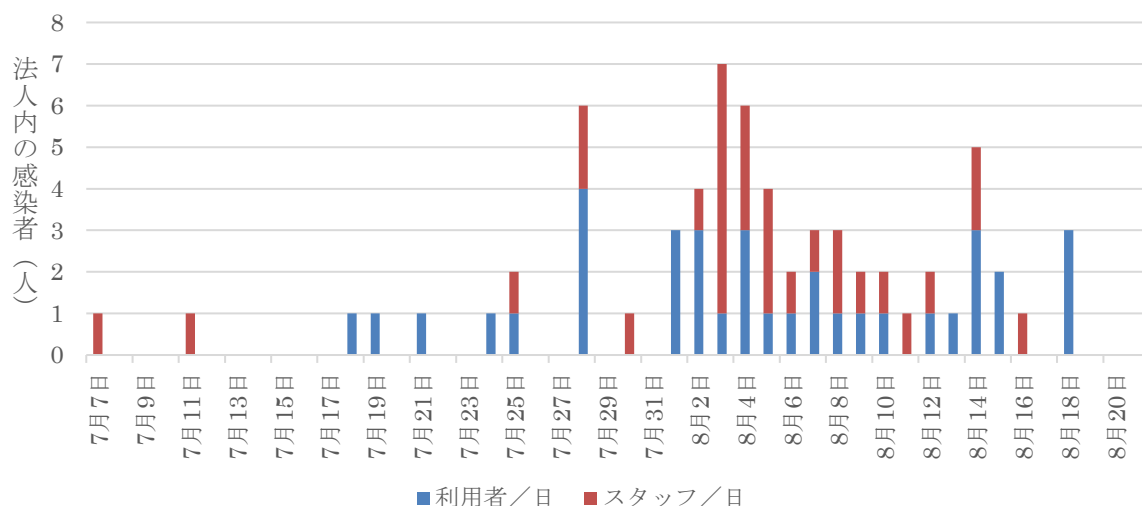
② 感染状態がグレーなゾーンとグレーな利用者への対応方法のミス。

感染しているかもしれない利用者の支援に入るスタッフに対して、完全防御の指示が出せなかった。たぶん大丈夫だろうという楽観的な見方が今回の感染拡大を引き起こしてしまった。同時に、クラスター初期の支援にかかわったスタッフの感染が確認されたのち、接触のあった利用者の待機期間を十分に確保せずに他スタッフが防御しないまま支援の場に入ってしまった。

今回反省すべき点には他にもあるかもしれないが、大きくはこの2点である。冷静に考えればわかることではあるが、明らかに混乱状態であった私たちはわずかに判断ミスを犯し、そのわずかな判断ミスが感染拡大を引き起こしたのである。

その後は、完全防護で感染した利用者を介助する感染者の隔離場所を3カ所設定した。1カ所目は、Kawasemiの3階である。フロアをゾーニングしたうえで必要に応じて介助した。泊まり込みのスタッフ1名を配置した。利用者7名、スタッフ1名が利用した。2カ所目は利用者が入居するシェアハウスの居室である。そもそも住み慣れた居室であり、本人の動きに制限はあったものの大

2022年7月以降 新型コロナウイルス感染者数の推移



きなパニックや混乱はなかった。通常の泊りスタッフが完全防護で対応にあたった。3カ所目は、感染が拡大し利用を制限したA事業所の2階の空き部屋を活用した。シェアハウス内での隔離が難しく、やむを得ず1名の利用者を個別に対応した。泊まり込みスタッフ1名を配置した。普段から1日当たり7～8カ所に泊りスタッフを配置しているところに、新たに2カ所の泊りスタッフが必要になったのである。

繰り返すようだが、そうそうの杜の利用者に対する支援の最大の特徴は、日中活動の支援と生活支援を事業所の所属に限らず、法人全体で支えることである。スタッフと利用者がそれぞれの事業所の枠を越えて複雑に関係する。利用者にとっては人や社会との関係が幅広く広がるのがメリットである。それゆえに、今回の感染拡大では、いつ?どこで?だれとだれが接触したのか?を洗い出すことが非常に難しかった。また、それらを可能な限り整理することで関係する人の範囲を狭めることが、一時的ではあるがそうそうの杜の特徴を失わせることになった。一時的ではあるが、利用者とスタッフの接触範囲を限定的に制限することで、少しずつ感染拡大は抑えられるようになった。

注意を払ったのは、以下の3点である。

- ①穴をあけることができない居宅介護に数多く入ることができるオールラウンダーのヘルパーへの感染防止
- ②医療的ケアが必要な人たちへの支援にかかわる生活介護事業所スタッフおよび居宅介護に入るヘルパーへの感染防止
- ③夜間支援に入るヘルパーの住居ごとのグループ化

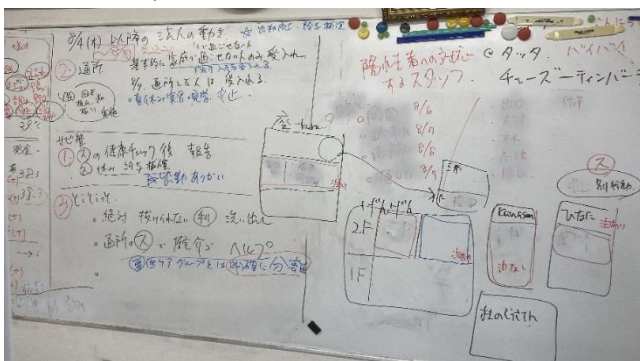


写真 対策会議

注意をして対策したものの、おそらく感染したであろうタイミングと発症が2～3日…長くて5日ずれることが見られ、8月14日以降も感染拡大は続いた。感染拡大初期に陽性となったスタッフが、少しずつ復帰することで陽性の利用者対応も余裕が出てきた。泊まり込みの支援においても同様であり、8月16日あたりから通常通り事業所運営が再開されたのである。

感染症対策としては、法人独自の取組みも含めて実施してきたつもりであったが、7月以降法人内において感染拡大を止めることはできなかった。であるならば、今までと同じような感染症対策を続けても感染の拡大は収まらない。完全に抑え込むためには、一定期間事業所を閉鎖して、利用者スタッフのそれぞれが社会活動を停止し、人との接触を極力減らすことが必要であろう。また、グレーで疑わしいところを陽性であるという前提のもと完全防護での支援が必要なのもかもしれない。しかしながら、お互いに社会生活を営む上で完全に社会との接点をなくすことは不可能であり、ましてや何らかの支援が必要な人たちに対して、その一切を停止することはできない。どうしても必要とされる事案と最低限必要な支援を形を変えながら継続するために柔軟かつ臨機応変な対応を必要とした。これからも、その時その時の状況と個々の利用者に応じて対応することが求められる。また、季節柄、熱中症や脱水症状の可能性、腸炎や風邪などとの判別が困難でありいつも以上に時間を要していたのも事実である。

第5波や6波で大変な思いをしていた入所施設等では、二度とあのような思いをしたくないという教訓から感染拡大には至っていないことを聞いた。今回の第7波では、通所事業所とGHを複数運営する事業体で、そうそうの杜とよく似た感染拡大報告を聞くことができた。先日参加した学習会では、とある事業者が医療機関から

「まずは、目・鼻・口を守りなさい」

と繰り返し言われたと話していた。基本的な感染経路はこの3種であり、それさえ押さえれば問題はないとのことだった。多くのことを考えさせられた1ヶ月であった。



關 宏之さんのエッセイ

今回のエッセイは、田舎への帰省の時の様々な珠玉の思い出がちりばめられているので、いつものように分けるよりまとめた方がいいという判断で掲載します。

〈お帰りなさい〉

お盆で田舎に帰ってきました。ご多分にもれず鳥取の田舎もコロナ禍に一喜一憂で、さる人が、「君のような過疎地では人もまばらで、感染することもないのではない？」とおっしゃった。確かに。でも今年のお盆には都会風の若者たちが大勢お墓参りをする姿もあり、私も含めて都会から災いが来ることもあるのですヨ。田舎のわが家は普段は空き屋で、先ず、電源を入れて、戸を全開して風を通し、仏壇の前で父母や弟に声を掛け、荷物をほどいて大まかな日程を書き出す。提灯を飾り、灯籠のろうそくや迎え火や送り火の材料を買う、檀家への年会費の支払い、和尚さんに帰ったことの報告、買い物リスト作成などなど気が付いたことから始めます。自転車でスーパーに買い出しに行ったり、飯を作ったり、庭木の剪定もしたり、それなりに忙しい毎日でした。盆花を持参してくれた妹やチェンソーを用意してくれたいところ以外とは誰とも会わず、天井に棲みついていたハクビシンと思しき妖獣もいところが退治してくれたので、静かなシーンとした1週間でした。

お盆は生きている者だけではなく亡くなった方々も里帰りをされます。田舎では、仏さんたちがうち揃って空飛ぶ船に乗って思い思いに帰郷の途につかれるのだといいます。私に丁寧につき合ってくれた方々もお帰りになったはずで、私は一足先に帰省して、皆さんをお迎えして墓前に近況を報告してきました。3年振りのお盆でした。



〈次郎さんに〉

次郎さんはわが家から3軒隣の同級生で、火の見やぐらのある家でした。彼は物覚えが遅く、動作もゆったりで、せっかちな若い女先生はいつもイライラして金切声であれこれと指図されていました。そんなにな言わなくてもいいのになと思って見ていました。私の席は1年生の時から彼の隣と決まっていた、坊主頭、お兄さんのお下がりのダブダブの服、鼻を垂らし、いつもニコニコしている彼と年がら年中ともにありました。

忘れられないことがあります。4年生の国語の時間のことです。折しも田んぼには稲穂が揃い、穂先がたわわに垂れ下がっている頃で、先生が「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という句を黒板に書かれ、解説されようとされた時のことです。次郎さんが突然怒りだしたのです。一瞬、何が起こったのか理解できませんでしたが、彼の言い分は、「稔（みのる）兄さんのことを皆の前でからかうな。許せない！」というもので、明らかに次郎さんの思い過ごしでした。一部始終を理解された女先生は、笑いながら「あなたの兄さんのことではないのよ」と彼を軽くあしらったのです。これがよくなかったようで、次郎さんの怒りはエスカレートするばかりでした。

彼とはウマが合って、大川で手製の釣り竿とスキの浮きでウグイやハヤ釣りを競い、早朝から昨晚に仕掛けたモクズガニの籠を回収し、小川をせき止めて小魚やドジョウとり、海では手製のヤスで魚突きをし、サザエやアワビをとり、すいかやトマトやキュウリは断りもなくそこらの畑から調達して食べ放題、冬には孟宗竹を曲げたスキーやそりに興じ、庭木のもちの木をナイフで削ってその皮をたたいて「とりもち」を作り野鳥を捕まえる。四季を通じて過密なスケジュールで、ランドセルを学校に置いたまま現地に直行することもありました。

大川には「曲がりが淵」とよばれる淀みがあって、特にお盆には先祖さんがカワコ(河童)になって子どもを引きずり込んで連れて帰るので行ってはならないと厳しく禁止されていました。過去には沢山の子どもがそこで亡くなったのだそうです。その淵はうっそうとした樹々に覆われ、危なげな「だわだわ橋」が架かっていました。次郎さんとはこっそりとそこで釣りをしました。大きな魚がよく釣れました。

在所ではお盆が終わった16日には各戸から麦わらと縄の提供を受けて丘の上に大きなたいまつを立て、鐘や太鼓を打ち鳴らしながら先祖を送るという風習がありました。小学生の上級生が中心になってとり仕切ることになっており、その年は私が6年生の最上級で、一連の行事を取り仕切っていました。次郎さんの姿はなかったのですが、よくあることで気にも留めていませんでした。大きなたいまつも立ち上がった5時ごろのことです。「次郎さんが亡くなった」という声がして、現場の「曲がりが淵」に急いで行きました。かすりの着物姿の次郎さんが淵の底に白い身体を横たえて沈んでいました。私たちはご先祖様に導かれて逝ったのだと納得したものでした。淵は、護岸工事の結果、かつての趣は消えてただのコンクリート製のありきたりの川になってしまいました。

私には、次郎さんがたった一回「軽んじるな！」と先生に抗議した時の形相が鮮明です。「来たよ！」とにこにこ顔に線香を立ててきました。

〈ノタ先生に〉

野田先生は、中学校の理科の先生で、悪ガキたちを上手にその気にさせるのがうまかった。あるとき地元の高等学校の演劇部が「鶴の恩返し」を演じることになり、先生は私たちを観劇に誘われた。悪ガキたちはその感想を聞かれて徹底的に批判した。「そこまで言うなら自分たちでやったらどうだ」という先生、「やっтарうやないか」と6人の悪ガキ。山口県の民話を題材にした「三年寝太郎」の台本を用意されていた。

「なまけもの、三年寝太郎」とさげすまれた寝太郎が村の干ばつを救う物語で、百姓の子せがれたちにはうってつけのストーリーでした。先生の段取りは本格的で、大道具や小道具は美術の先生と教頭先生、音楽は吹奏楽部のメンバーと顧問の先生、衣装や化粧は担任の女先生、照明は美術の先生といった具合に先生方と3年生の大半に役割が割り当てられ、私はこともあろうか舞台監督に指名されました。何度も何度も稽古を重ね、町の文化祭や県の芸術祭でも演じ、先生が東京から招かれた民藝運動のリーダーも観劇され、親しくお話をしました。中学生たちは、それを機に、駅伝、学校対抗の体育会、吹奏楽の中国大会、郡の野球大会に参加し、それなりの成果を上げたのでした。同期生会ではいつも話題になります。

そんなわけで私たちは野放図に育ち、先生の宿直の晩にはそれぞれの家でかすめた手土産を持参し、先生の話に夢中になり、青春真っ只中を走ったものです。考えられないことですが時には酒盛りもありました。すれすれの不良集団でした。

先生は皆の尊敬・憧れの的で、敬愛を込めて「ノタさん」と呼んでいました。ある時、学校の廊下で出会いがしらに先生にぶつかり、廊下に倒してしまいました。恐縮して謝罪する私に先生は私を押しのけて「ノタ通る」と告げ、その場を去っていかれました。それが「not at all」だとわかったのはずっと後のことでした。「どういたしまして！」と「ノタは行きますよ！」のかけ言葉だったのです。「こんな大人になりたいなー」とあこがれ続けたものでした。

お盆の中日の14日に先生の墓前に「赤飯参上」(お盆の中日にお墓に赤飯を供える習わしがある)と、赤飯をもって關の来訪を告げました。シャレたつもりですが先生は「まだまだだなー」と、にっこりされたに違いありません。



〈ばあちゃんたちに〉

最後は身内の仏さんです。私の地域は、その昔に市がたった場所を地名としており、私の家は上市、祖母“しめのさん”は、下市の饅頭屋から嫁いできました。饅頭屋の跡取り娘が“いわさん”で“しめのさん”とは二人姉妹でした。

私の父が国鉄に勤務する転勤族だったため、私は祖父母のもとで中学・高校に通いました。祖母は毎日の弁当や小遣いなどに気を使ってくれました。祖母は私よりも幼くして母親を亡くした3歳上のいとこを切なく思っており、何事につけても分かりやすく差別しました。特に食べ物がそうで、私が不満顔だと「手を出して握れ。比べてみよ。お前の方が小さいだろうが。二人に差があって当然だ。」と言われ、悔しい思いをしました。私は提供される食べ物を見比べるいやしい孫だったようです。私のことをイカのぼり（イカのぼりは和紙や竹の手製の凧のこと）になぞらえて、鉄砲玉のごとく出かけては所在不明の日々を「切れたイカのぼり」、「しごんならん子（手に負えない子）」、「のふぞ（やんちゃ坊主）」「野風増」は河島英五のカラオケにある）、と事あるごとに嘆いていました。

ただ中学3年の冬の寒い夜に、頑固じいさんと大喧嘩をして「出ていけ!」「出ていく!」という陰悪な場面で、しめのさんが「二人とも冷静になれ!」と厳粛にのたまうた。やくざのような仕切りに圧倒されました。私が京都で浪人生活を送っているとき、祖父の表書きの手紙が届き、中には祖母からの方言まるだしの「ひらがな」のメッセージが入っていました。学校教育が浸透していない時代の申し子だったのです。感涙でした。

しめのさんは、語りの名人で、よく孫たちに昔語りをしてくれました。神無月（かなづき）の10月には、「全国の神さんが大山の上空を飛んで出雲に向かわれたぞ。はよ行って拜んでこい」とか、三徳山の投げ入れ堂の話、侍地藏、退休寺の龍の穴など、何度聞いてもぞくぞくワクワクでした。草花を愛で、道路に面した花壇には季節の花を植え、綺麗な花があれば買い、譲り受け、牡丹の島から来る花売りのおばさんたちも競って綺麗

な花を持参しました。花が盗まれても「花泥棒はおとがめなし!」と豪語していました。

晩年は私をみても「どちらさんですか」といい、頻繁に下市の生家を訪ねるようになったと母が嘆いていました。戒名には訳知り和尚さんが「華」の文字をいれてくれました。

〈いわさん〉

いわさんは、大工さんを婿養子に迎えて家業の饅頭屋は廃業していました。事故がもって全く見えなかったのですが、いわさんが作るこし餡入りの「あんもち」は絶品で、大きさが均一で、美味しくて、見た目に綺麗で、競っていわさんの餅を求めたものでした。私は、いわさんから見えなくなったことへの恨みや生活への辛みを聞いたことはありませんでした。いつもきりっとした清楚ないでたちでごくごくさりげなく日常生活をこなす主婦でした。行くとたびに、「ひろちゃん、この前よりもおきゅうなったな」と私の頭に手をやりながら「おまんがショウカラ（きかんぼう）だといわれているのはよう知っとる。それを曲げんでもエエ。けんども弱いもんいじめだけはしたらいけんよ!」と行くたびに諭されました。子供ながらにその語調といつも用意してくれているおやつの包みにほのぼのとした温もりを覚えよく訪れました。

私が5年生の時に亡くされました。悲しくて見送れませんでした。私は、偶然に偶然が重なって視覚に障害がある人の仕事に就きました。いわさんがそうさせたのだと確信しています。弱いもんいじめをしたのではないかと思う時にはいわさんの温かい手とあの一言がよぎります。50年間勤めこの度退職したことを報告しました。いわさんの戒名には「明」の字が刻まれています。



七夕祭り・風鈴祭り・コンサート

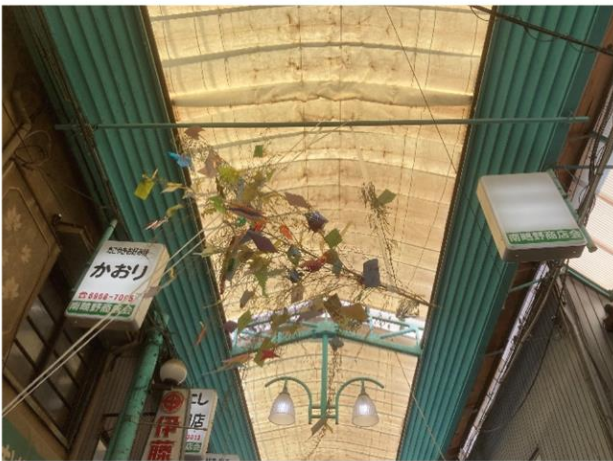
山川 真司

今年も昨年に続き七夕祭りという事で、数グループから七夕飾りが商店街を飾ってくれました。

工夫を凝らした七夕飾りも多くあり、南鳴野商店街を飾ることが出来ました。行きかう人が、笑顔で見学されており大変良かったです。今回も通行された方々や街の人に優秀な飾りを選んでもらい、見事に優勝されたのが、婦人会の方々が作った飾りで、とても艶やかでした。

また同時開催でもあり、長期の開催で風鈴街道と銘打って、たくさんの風鈴を南鳴野商店街だけでなく、鳴野商店街にも飾らしてもらい、いろいろな方にご購入頂き、短冊に風鈴自体にも絵柄などを、書いてもらい、涼やかでにぎやかな音色を楽しんでもらえたと思います。

これから毎年少しずつ増やしていけたら、と考えていますので、ぜひご参加ください。

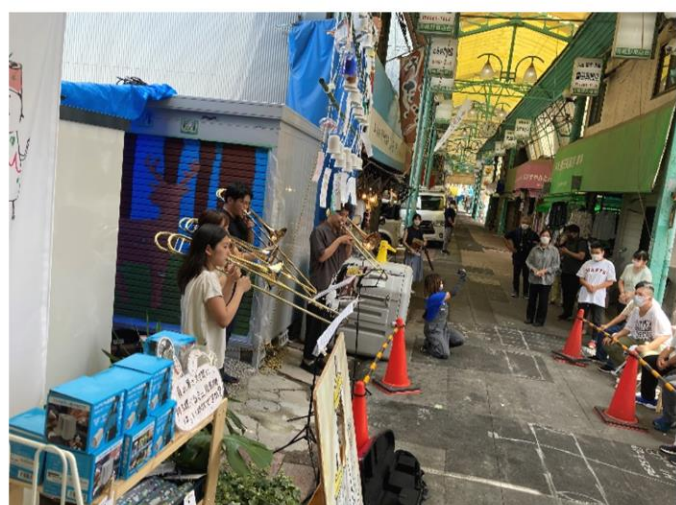




7月28日と8月23日にはトロンボーンカルテットのミニコンサートを南鳴野商店街にて開催し、暑い夏の日差しの中、みなさんじっくりと聞き込み、手拍子をしたりと一緒に歌ったりと楽しめました。

カルテットの皆さんは、その後オーケストラの一員として鶴見の音楽堂や城東区の区民ホールにて演奏され、たくさんの人に来てもらい盛況だったとの事。

来年も楽しみです。



地域の夏祭りシリーズ（今福まつり・聖賢まつり）

2020 年から全世界で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症によるイベント等の規制の影響により昨年、一昨年と開催が出来なかったが、規制の緩和により 3 年ぶりに祭りの開催になった。

しかし、7 月以前は少なかった新規感染者数も 7 月に入ってからオミクロン株の爆発的に広がり今年の開催も危ぶまれたが、感染症対策を行った上での実施となった。

なお、利益のほとんどは、ミャンマーの日本ビルマ救援センターを通じ難民支援に寄付をした

1. 今福まつり

- ・ 日 時：2022/7/23（土）
- ・ 場 所：今福小学校
- ・ 販売品：フランクフルト ￥100
焼き鳥 3 本 ￥200
フローズン ￥100
アイスクリン ￥100
- ・ 売 上：¥99,350
- ・ 利 益：¥57,531

・ 内容

以前までは今福事業所、いま福の家、座座、就年ツの 4 事業所がメインとなり祭り準備や販売を担当していたが、今年は杜の shokudo も加わったことで、より一層盛り上がり生まれ、販売する商品にもレパートリーを増やすことができたように感じる。

祭りの来場者に関しても、開催日以前からコロナウイルス感染者数が増えつつあったので、例年よりも来場者が減少するかと思われたが、3 年ぶりということも影響してか、予想をはるかに上回る来場者数で活気のある祭りとなった。

おかげさまで販売していた商品すべてに行列ができ、特に焼き鳥に関しては 20 メートルほどの長い列を作っており 20 時前にはすべての商品が完売するほどの売れ行きであった。

今回の祭りは利用者さんの余暇としての役割のみでなく地域全体の活気を取り戻すための大切な行事であった。

来年こそは感染症による制限のない、心の底から楽しめる祭りが開催されればよいと思う。

（手塚）



2. 聖賢まつり

- ・日 時：2022/07/23（土）
- ・場 所：聖賢小学校
- ・販売品：唐揚げ ￥100
フライドポテト ￥100
- ・売 上：¥69,300
- ・利 益：¥16,294

3年ぶりであることとコロナが蔓延していることがあり、客入りの予想が難しい状態でのスタートとなった。15時の時点では祭り全体でも人は疎らであったが、徐々に人が増え始め、17時を過ぎる頃には大盛況となった。

出店していた店舗の方でも17時以降は客足が途絶えることなく常に人が並んでおり、揚がるの

が追い付かず、特に終盤は他の店舗の食材が尽きた影響もあってか行列が出来ているような状態であった。毎年参加していたスタッフも「ここまでは初めて」と驚いていた。今年は唐揚げとフライドポテト共に40kgを全て売ることが出来た。仕入れ値が高騰したが、値段は据え置いた為、利益自体は少なくなってしまったが大成功であった。

また、利用者の方も店を手伝いにくれたり、お客として祭りに遊びにきてくれたりと地域の行事に溶け込み、楽しんでいる様子もみられた。障害の有無に関わらず、誰もが地域に溶け込んで自分らしく暮らすことが出来るように、今後も地域の行事に積極的に参加していきたい。

（水谷）



研修旅行（鎌倉・東京）

昨年度から外国人スタッフの導入を開始した。現在、正職2名（1名はミャンマー、40代男性、日本での永住資格あり、学生の通訳等も担ってもらっている。もう1名は韓国、20代男性、日本での永住資格あり）専門学校在籍者8名（1名はネパール、専門学校2年生、7名はミャンマー、来日2年目、専門学校1年生）日本語学校在籍者2名（ミャンマー来日1年目）と合計12名の外国人スタッフが就労している。

ほぼ3年計画で1年目が日本語学校、2～3年目は介護福祉士資格取得のために福祉専門学校へ就学。その後支援スタッフとして独り立ちしてもらおうという計画である。

外国人スタッフは、従業者が増えてくると日本的な文化の理解という点で大きな課題が出てくるのではないと思うのでじっくりと時間をかけて融合していかなければならないと考えている。その意味では彼らの文化もできるだけ理解しながら進めていかなければならない。

その中でも、中心になるのが来日2年目の7人が主流になっていくので大事に育てていきたい。

昨年はコロナの影響下の中、大阪府下の温泉に宿泊で連れて行ったものの、少ない給料の中から国に仕送りしている関係もあり、自分たちで独自に、さらにこの1年間コロナの影響もあり旅行もできていない状況があり、今回は彼らの要望で鎌倉の大仏を中心に東京旅行を提供した。

※ミャンマーでは奈良の大仏よりも鎌倉の大仏が有名だそうです。

今回は、まだたどたどしい日本語で旅行の報告をしてもらいます。

研修旅行（鎌倉・東京）

仲澤 秀敏

昨年に引き続きミャンマースタッフ7名とスタッフ3名で引率し8/29～8/30に神奈川（鎌倉）・東京へ研修旅行に行ってきました。

ミャンマースタッフ7人は、一昨年の12月に留学生として来日し、将来は日本の福祉を学びたいと夢を持って来日したが、2月にクーデターが発生し、母国の家族の無事を祈りながら仕事に学校にと励んでいる、彼らは学生ビザで日本に来ているため、労働時間が1週間に28時間と制限され、わずかな給料の中から国の家族に仕送りをしており、またコロナの関係もあり旅行に行ける機会は皆無だったので、特別に労をねぎらう為に旅行を企画させた。

ミャンマーの人々にとっては、意外にも鎌倉の大仏が日本の行きたい観光地のトップの一つだそうです。



1 日目、初めての新幹線に乗り、江ノ電に揺られて鎌倉大仏へ。民族衣装（日本で言う巻きスカートのようなもので民族や男女によって模様が異なるそうです）に着替えて大仏の前で参拝しました。国の情勢等もあり、それぞれが国の行く末や家族の安全を祈願していたのではないのでしょうか。熱心に参拝するミャンマースタッフの姿をみると色々と考えさせられました。

参拝が終われば 20 代の若者、写真や買い物など目に留まるものに興味津々。夜は高田馬場にあるミャンマー料理店へ行き、料理を堪能しました。辛いのですが丁度よい酸味もあり、辛くて爽やかと言った感じで日本人の口にも合い、とてもおいしくいただきました。

1 日目のラストは東京スカイツリー。展望回廊（450m）まで登り、東京の夜景を満喫しました。ミャンマースタッフはとにかくポーズをとって写真を撮ることが好きなので 1 歩進んでは写真撮影。なかなか前に進みません（笑）。



2 日目は、雷門で有名な浅草寺と日本最古の遊園地「花やしきへ」。浅草寺での参拝を済ませ、花やしきへ。アトラクションに乗ると思いきやいきなりゲーセンに入っていました。お化け屋敷では

「ギャー！！！！」と大音量で叫びながら腰を抜かすエーさんとヤダナーさん。みんな楽しそうにアトラクションも楽しんでいました。

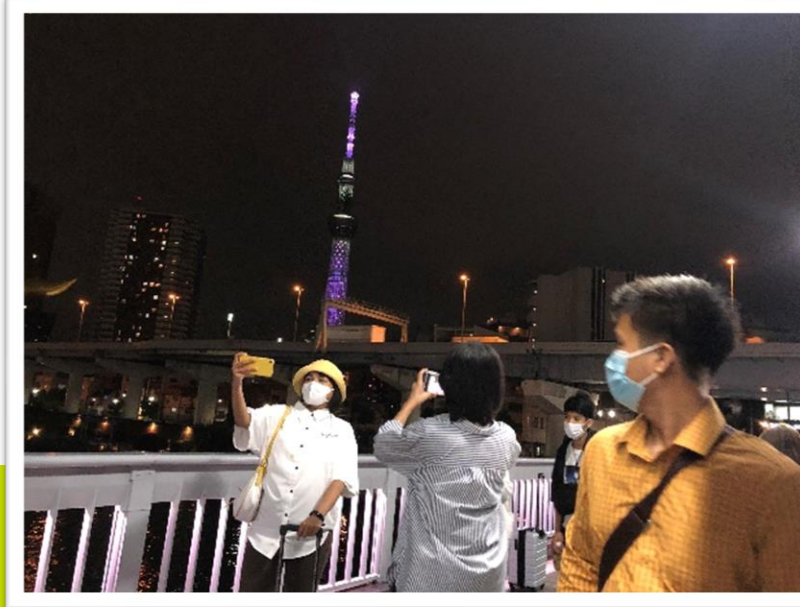
たっぷり楽しんだ後に待ちに待ったお土産を買いに仲見世通りへ。自分たちが働いている事業所 1 つ 1 つにお土産を買いだしました。そんなに買わなくてよいと伝えたのですが、ミャンマースタッフの日々の感謝の気持ちがよく伝わり嬉しく感じました。

浅草寺で全員おみくじを引き、10 人中 4 人が『凶』でしたが、大きな事故やトラブルもなく楽しい研修旅行を満喫できたと思います。

最後に、言葉も通じない外国で働くことや母国の家族の心配がある中で日々勉学と仕事を頑張っています。日本語も上達し、日々変化していく様子がうかがえます。そのような姿を見て、本人たちの努力はもちろんのこと日本語講座を毎週開催して下さっている宇野理事に改めて感謝を申し上げたいと思います。

これからもそうそうの杜のスタッフとして一緒に歩んでいきたいと思っています。





アウンニェインソー

私は旅行はとっても楽しかったです。そうそうの杜のおかげで行きたいところに行けました。ありがとうございました。日本へ来る前に一番行きたいところだったからとても楽しかったです。鎌倉大仏に御祈りしたらできるようになると聞いたことがあるのでいっぱい御祈りしました。家族が元気でいますようにとか、ミャンマーはもうすぐ平和になりますようにとかミャンマーで戦争のせいで生活が困っている人たちはもうすぐ大丈夫になりますようにとか、私達を何でも心配しないように助けてくださった荒川さん、山川さん、眞頼さんは元気で 100 歳以上長生きしますようにとか、私も N -1 まで合格とか介護福祉士の試験を合格できますように御祈りしました。あとは皆さんと一緒に写真を撮りました。それが終わったら東京へ行ってミャンマーのお店で晩御飯を食べてとても美味しかったです。あとは東京スカイツリーへ行って、東京スカイツリーの上から東京の夜の景色を見てとても綺麗でした。東京スカイツリーの中でも写真をいっぱい撮りました。終わったらホテルへ行ってホテルを間違えて到着するのに 2 時間くらいかかって疲れましたけど、楽しかったです。それが一番思い出すことでした。あとはホテルに泊まりました。朝食をホテルの食堂で食べて浅草へ行きました。浅草でプレゼントを買いました。

旅行で私たちを安全にするように助けてくれた仲澤さんと田島さんと板見さんもありがとうございました。仕事をもっと頑張ります。夏休みの旅行はすごい旅行でした。



ヤダナートウン

29日の朝早めに起きて新大阪から鎌倉まで色々な電車を乗り換えていきました。鎌倉に着くとさきにミャンマーの服を着替えて鎌倉大仏にお祈りをしました。お祈りした後、写真をいっぱい撮りました。鎌倉から帰る時、みんなはお腹が空いていたので、お菓子とジュースを買って食べました。また東京へ行ってミャンマーの料理をみんなと一緒に食べるのは美味しいし楽しかったです。夜 6 時ぐらいにそこから出発して東京スカイツリーへ行きました。東京スカイツリーの一番上まで行って景色を見て嬉しかったです。夜 9 時ぐらいに泊まるホテルへ行く時も変なホテルを間違えて行ったので、時間がかかって歩きました。でもとても楽しかったです。30 日 8 時頃起きてホテルの朝ご飯を食べて 9 時ぐらいホテルから出発して浅草と遊園地へ行って遊びました。お化けの家は一番怖かったです。

板見さん、田島さん、仲澤さん、あとミャンマー人、みんなお疲れ様でした。どうもありがとうございました。荒川さん、どうもありがとうございました。そうそうの杜のみんなありがとうございました。

ミョートウーラ



初めに荒川さんとそうそうの杜を有り難いです。新大阪で新幹線の写真を撮りたいので、田島さんは「電車がそっちから来ますで」と言っていた。

でも電車がみんなの後ろから急に來たので私たちの東京旅行を笑うことで始まりました。新幹線を始めて乗り、すごい速かったです。景色も綺麗でした。11時半頃に鎌倉駅に着きました。駅から歩いたら10分ぐらいかかりました。そのとき話している間、木の後ろから鎌倉大仏が見えてきたから、「ワー」と声を出してびっくりしました。みんながミャンマーの服に着替えして、お祈りして1時間ぐらい写真を撮ってお土産を買って帰る時にアイスクリームとかき氷買って食べながら色々話をして楽しみました。鎌倉から高田馬場まで行って、ミャンマーのお店で仲澤さん、田島さんとミャンマーのことを色々話したり、ミャンマービールを飲んでミャンマー料理を食べました。ミャンマー料理を日本人が食べれないかなあと心配したけど、おいしいと言っていたので嬉しいです。そのあと、東京スカイツリーに登って上から見たらとても綺麗でした。東京スカイツリーからホテルへ行く時、ホテルを間違えたから2時間ぐらい歩きました。ホテルに着いた時、足が痛くてしんどかったです。次の日はホテルで朝ご飯を食べて、10時頃に浅草へ歩いて行った。浅草の雷門の前でグループ写真を撮って仲見世にも人が混んでいました。ミャンマーが幸せになるように祈りました。また、おみくじを引きました。一番いいのだったので幸せでした。それから花やしきに行ってローラーコースターに乗った。あとは射的でおもちゃ落したり、お化け屋敷に入ったりしました。とても楽しかったです。浅草でお土産を買って東京駅に行って大阪に帰りました。帰る時、新幹線に酔いました。

この旅行は私の人生で忘れない旅行でした。旅の途中全て助けてくれた。仲澤さん、田島さん、板見さんありがとうございます。楽しい旅行でした。

スウミヤツトエ

私たちは夏休みで旅行に行きました。私たちは荒川さんのおかげで旅行に行ったのでありがとうございますと言いたいです。日本人のスタッフさん3人とミャンマー人7人で一緒に旅行に行きました。日本人のスタッフさん、仲澤さんと田島さんと板見さんにもありがとうございますと言いたいです。

旅行に行った場所は鎌倉と東京スカイツリーと浅草です。私は初めて新幹線に乗るのでとても緊張でした。新幹線に乗った時、富士山も見えたからとても嬉しかったです。私は日本に来る前に鎌倉大仏へ行きたいと思ったことがあります。



鎌倉大仏が見えた時、疲れたことがなくなりました。大仏にお祈り前にミャンマーの服に着替えてお祈りしました。私がお祈りしたのはミャンマーが幸せになるようにとお祈りしました。あとは私の家族も幸せになるようにお祈りしました。お祈り終わった後でみんなと一緒に写真を撮りました。鎌倉から帰る時、お土産も買いました。とても楽しかったです。スカイツリーに行く前に晩御飯を食べるためミャンマーのお店に行きました。晩御飯はとても美味しかったです。スカイツリーに行ってスカイツリーの上から東京の夜の景色を見てとても綺麗でした。写真もいっぱい撮りました。ホテルに行く時に間違えて2時間ぐらい

歩いて疲れました。疲れたけど、ホテルが見えた時疲れがなくなりました。それが一番思い出すことでした。ホテルに入る時、受付でロボットが挨拶しました。私たちはロボットを見た時びっくりしました。ミャンマーのホテルもロボットがあるなraidいと思いました。

ホテルの部屋はエーさんと一緒に泊まりました。朝食はホテルの食堂で食べて浅草へ行きました。ローラーコースターに乗った時怖かったけど楽しかったです。浅草でプレゼントを買いました。とても楽しかったです。

仕事ももっと頑張ります。夏休みの旅行はすごい楽しかったです



エーニーライン

私は国にいる時、鎌倉大仏へ行きたかったです。鎌倉大仏はミャンマーで有名な大仏です。ミャンマー人達は一番知っています。私は国で日本語を勉強する時、日本に来たら鎌倉大仏に行こうと思っていました。日本の中で一番行きたいところは鎌倉大仏です。荒川さんのおかげで行きたいところへ行けました。荒川さんいつもありがとうございます。鎌倉大仏に会えてとても幸せです。鎌倉大仏でお祈りしたり、写真を撮ったりしました。みんな嬉しかったです。東京スカイツリーの上もとても綺麗です。みんな東京スカイツリーの中で写真を撮りました。東京スカイツリーからホテルまで歩いて2時間ぐらいかかりました。遠くからホテルが見えてとても嬉しかったです。ホテルに着いた時に間違ったホテルに行ってしまったこと

に気づき泣きたくなりました。疲れても楽しかったです。ローラーコースターに乗る時はとても怖かったです。お化けの家も入りました。お化けの家に入っても何も見ませんでした。怖いので見れなかったです。でもお化けの音は聞こえるので怖くて泣きました。

今回の旅行はとても楽しかったです。

エイピュージン

8月の29日と30日東京へ旅行行きました。コロナにかかって10日間家にいて治ったばかりなので、体がちょっとしんどかったけど、みんなが色々手伝ってくれました。最初の29日お昼に鎌倉大仏に着きました。私たち7人が一緒に持ってきたミャンマーの服を着替えてお祈りをしたり、写真を撮ったりしました。あと、お土産の店で大仏の写真とか、色々なお土産を買ってスカイツリーへ行きました。私にとって鎌倉大仏へ行けたのは夢みたいに嬉しかったです。ミャンマーにいた時からずっと行きたかったので、本当に良かったと思います。ミャンマーの平和のため、あと自分の家族のためお祈りもできて嬉しかったです。

お金を出してもらったので、荒川さんと早そうその杜に感謝したいと思います。いつもありがとうございます。懐かしく色々なミャンマー料理も食べられたし鎌倉大仏にも行けたし、いい思い出もたくさんできて忘れられない旅行になりました。

以上です。

ティンタトゥエ

旅行は初めてやったことが多かったです。初めて新幹線に乗って、座席が飛行機より広いのでびっくりしました。ミャンマーにいる時にも一番行きたい場所は鎌倉大仏です。鎌倉大仏を見ると幸せになって1つ目の目的は達成されました。お寺にお祈りしたり、写真を撮ったりしました。午後15時頃、鎌倉大仏から電車に乗って東京へ行きました。東京にびっくりしたことはエスカレーターに乗る時、大阪と反対です。そのことを私が全然知らなかったのでびっくりしました。17時頃ミャンマ店で久しぶりにミャンマー料理を食べました。日本のスタッフたちにミャンマー料理を食べさせましたので良かったです。ミャンマー料理は辛いと酸っぱいの味が多いので、日本人にとっては初めての味と思いました。みんなと一緒に晩御飯を食べながらお話をしました。食べた後でスカイツリーに出発しました。初めてとても高いビルを見たのでびっくりしました。スカイツリ

ーの上に乗って東京の夜の景色を見ました。めっちゃ綺麗でした。でも下を見ると怖かったです。スカイツリーから泊まるホテルに行く時道を間違っ

て歩くのが2時間ぐらいかかりました。それは生まれた時から今まで初めて歩くと思いました。このことは私の頭にいいメモリーで残りました。次の日は浅草行って雷門を見学したり、遊園地に遊んだり乗り物に乗ったりしました。遊んでいる時、怖く、びっくり、心配することなどを感じた。帰るときは私のかばんを片付けました。ロッカーの鍵の紙がなくなりました。でも、日本人のスタッフたちのおかげで不安しないでカバンをもらいました。スタッフたちのおかげです。

旅行には日本の色々な文化、有名、食べ物を研究しました。みんなの協力で最後までできました。荒川輝男さんとそうそうの杜のおかげで遠く夢のよう

なところへ行きました。面白く楽しいを感じました。いつもありがとうございます。



夏の湖水浴（Prife・座座・つむぎ館）～IN 琵琶湖～

金原 裕一郎

○日時：2022/07/14～07/15

○場所：滋賀県高島市マキノ町 琵琶湖湖畔

宿泊先 民宿ヴィラ山水 滋賀県高島市マキノ町知内 87

今年も昨年に引き続きコロナ禍の中、1泊2日の湖水浴旅行に行くことが出来ました。また、昨年よりも、参加人数が10名程増えました。初参加メンバーや新しいスタッフも企画の段階から集まって、楽しい企画を考え当日を迎えました。当日は雨模様との予報ではありましたが、そんなことは全く気にならないくらい皆で盛り上がる事が出来ました。

1日目、行きのバスレクでは、一筆描き似顔絵を作りあげようと、最初にドラえもんの似顔絵を次に荒川理事長の似顔絵を3グループに分かれて、一人ずつ一筆で描き繋いで、どのグループが一番似ているかを競いました。特徴を捉えながら完成させていました。

楽しんでたのもつかの間、旅館に到着。お昼は近くのお食事処を貸切ってボリューム感たっぷりの昼食を堪能し、いざ湖水へ。

湖水は海と違って水に浮かない為、救命胴衣を身にまとっての入水。水の掛け合いをしたり泳いだり、時々雨が降ったりもありましたが、なかなか湖から上がってこないくらい楽しんでいました。

湖水レクも考えていましたが、この時は気温が低く、ビーチにあがると寒くて出来ませんでした。夜はバーベキューと夜レク（花火）を準備していましたが、小雨が降ってきて、野外での活動が出来ず。それでも、1階レストランカフェでの食事に加えて、急遽、旅館の2階3階を使っての宝さがしゲームを開催。

各部屋ごとでチームを作り、あらゆるところに隠してある宝箱を見つけてはその中に入っているクイズに答えていくゲームをしました。初めての試みではありましたが、みんなが思いっきり元気に笑顔ではしゃいでいた時間を過ごせました。



2日目は、天候にも恵まれ、朝から海岸に出て、レクリエーションを行いました。ゴミ拾い大作戦と称して、皆で湖の砂浜に落ちているゴミを集めました。単に集めるだけではおもしろくないので、チームに分かれて勝ち負けを決めました。最後はそのことも忘れるくらい皆汗をかきながらゴミをいっぱい集めることが出来て、少し琵琶湖が綺麗になった瞬間でした。

その後の湖水は最高に気持ち良くて、時間ぎり

ぎりまで湖水浴を楽しみました。帰りはお土産も買ってバスの中では遊び疲れて…それでもいい表情で(^◇^*)全員無事に帰ってくることが出来ました。

この2日間を通して、段取りや当日の細かな動き、スタッフばかりにならず利用者をもっと絡めて旅行を作りあげていく部分での課題もありましたので、次回の旅行はもっと楽しいものにしていきます。



ミャンマー情勢 最新情報

ソウ アウン（とことこっと）

現在、ミャンマーはクーデターが起きてから 1 年 7 ヶ月経過した。報告によると、更にひどい状況は続いている。ミャンマー全国で戦争の状況が、落ち着かない。毎日殺されている人がいて、食べ物や寝る場所もなくとても困っている人々が毎日増えている。

その中では小学校が襲撃され、子供達が亡くなったニュースもありました。全国で特にひどいのは第 2 の都市マンダレーの近くにあるサガイン地区です。そこは多くの村の家屋が焼かれ、住むところを失った村人が何千もいます。最近聞いたニュースでは軍の指示で再開している高校や大学へ、軍の教育や訓練を行わなければならないように軍が圧力をかけている。

学校で普通に教育が受けられないので、海外に出ようとしている若者がものすごく増えています。しかし、出ようとしてもパスポートやビザを取れないように指示が出されていてとても難しい状況です。

中でも一番厳しく出国を禁止されているのは、医学部を卒業したお医者さんと建築士、エンジニアなどです。国から出ようと一生懸命頑張る人達がなかなか出られなく、国軍に縛られて自由に発言も出来ない苦しみを持っている。

僕の実家がある地域は今まで特に問題はなかったが、10 月から電気を切られていて生活に困っている。これからどうなるか心配で、僕も寝られません。

これからミャンマーが 1 日でも早く、平和になるように願っています。

日本ビルマ救援センターのホームページより引用

少額からのご寄付を受け付けています。

また、下記銀行口座への直接のお振り込みも受け付けています。

りそな銀行 金剛支店（普通） 6553928

口座名 日本ビルマ救援センター

※振り込みの場合、下記アドレスまでお名前とご住所をお知らせください。

▶brcjapan@gmail.com

〈ミャンマー 民主派勢力の投稿に「いいね」で最大禁錮 10 年〉

2022 年 9 月 21 日 4 時 55 分

ミャンマーで実権を握る軍の報道官は、対立する民主派勢力などの交流サイトの投稿をシェアしたり「いいね」を押したりしただけで最大で禁錮 10 年を科すと警告しました。軍としては、SNS を通じて支持を広げる民主派勢力の勢いを抑え、情報を統制するねらいがあるものとみられます。

ミャンマー軍が設置した「国家統治評議会」の報道官は 20 日、記者会見を行い、軍と対立する組織を支援することが訴追対象になるおそれがあると指摘しました。

そのうえで、軍に抵抗を続ける民主派勢力が発足させた「国民統一政府」などの交流サイトの投稿をシェアしたり、「いいね」を押したりしただけで、人々を扇動した罪にあたるとして最大で禁錮 10 年を科すと警告しました。

また、市民が民主派勢力に物資などを提供することは重大な犯罪に関わっているとして、厳罰に処す考えも示しました。

クーデター後の混乱が続くミャンマーでは、軍と一部の民主派勢力との間で今も戦闘が続いていて、軍としては、SNS を通じて支持を広げる民主派勢力などの勢いを抑え、情報を統制するねらいがあるものとみられます。

お世話になっております（第2弾）

出口 祐也

前回から始まった地域の方へのインタビューですが、今回は、鳴野みなみ商店街を中心に鳴野地域の生き字引として長年活躍されてきた谷本利雄さんに鳴野のことなどについて質問させていただきました。当日はお墓の草取りに行かれていたとのことでお疲れのところインタビューにご協力いただきありがとうございます。

出口: まず昔の鳴野の様子を教えてください。

谷本さん: 鳴野西の市営住宅一帯は全部カネボウの紡績工場で、今の公園とかスーパーがある場所カネボウの敷地になっていました。当時はカネボウと言ったら日本一の紡績会社でした。昔の鳴野はカネボウでもっていたようなものでしたね。家は平屋や2階建てがいっぱいありました。でも戦争中に空襲で爆弾が落ちてきたからみんな焼けて、カネボウも焼けてしまいました。後、鳴野には映画館と芝居小屋がありました。映画は無声映画で内容を伝える弁士が3、4人いてバイオリンや三味線持ったりして、映画の説明をしていました。

鳴野という名前の由来につながりますが、昔大阪城が築城されたころはこの辺一帯は湿地帯で、米も作れないようなジメジメした場所だったみたいです。そこに鳴という鳥が繁殖していました。田に鳥と書いて鳴という鳥になります。鴨ではないんですよ。それで、鳴がいる原っぱやから鳴野という名前になったという風に聞いてます。

出口: ご自身はどんな仕事をしてこられましたか？

谷本さん: 高校を出て18歳から父親と一緒に魚屋をやっていました。今でも組合の役員をしていて会合とかに出席しています。組合の役員ということで天皇陛下から2回勲章をもらっているんですよ。皇居でお正月に皇族方が並ばれてるところがあるのですがその奥に入れてもらい天皇陛下に勲章をいただきました。そんなところなかなか行けないですよ。

出口: 現在、普段は何をされていますか？

谷本さん: 今は無職でなにもしていません。ただ、役員や相談役はやっているからその会合とかには今も参加していますよ。

出口: 最近あった嬉しいこと、逆に腹が立ったことを教えてください。

谷本さん: 別に腹立つことはありませんね。反対に嬉しいことですが、去年植木に水をあげている時にしんどくなったんです。それをちょっと近所の人に言うたらみんな心配して寄ってきてくれたんです。それでお茶屋さんの息子さんが病院まで走ってくれたり、先生に診てもらった後もリンゴすってあげよとか通院に付き添ってくれたりして近所の方が心配してくれました。結局脳梗塞ということで入院となりましたが、退院してからも町内の方が心配してくれるんです。これはやっぱりありがたかったし、嬉しかったです。私の命が延びたのはこの町内のおかげです。こんない町内はない、最高の町内だと思います。ご近所の親切さ、それが一番嬉しかったことです。

出口：今の若い世代に何を伝えていきたいですか？

谷本さん：若い世代にと言っても私達の孫だったら 30 歳ぐらいになりますね。その人たちがの方がしっかりしています。私達のほうが習わなければいけないことが多いと思います。平等の時代になったり、女性の時代になったりで時代が変わっていますから。だから町内会とかも次の世代に任せていこうと思っています。自分たちの時代ではなくこれから若い人の時代だと思います。私は戦争を経験しているので毎年京橋でへ行って慰霊祭に参列はしています。読売新聞に記事で載っていました。

出口：そうそうの杜が来てから何か変化がありましたか？

谷本さん：変化はありましたよ。まずをそうそうの杜の人が掃除とかで歩いてくれるようになって商店街の人通りが増えました。やっぱり人が通らないとシーンとして寂しいじゃないですか。あと商店街の空き店舗を使って

いくつかお店もしてくれていますが、それも商店街がシャッター通りになるよりかはいいじゃないですか。イベントもいろいろしてくれています。そうそうの杜さんが来てくれて良かったと思っています。

出口：最後に今後の鳴野の発展にはどのような感じに思われますか？

谷本さん：昔は商店街とか小売店が流行っていました。でも今は大きいスーパーとかが流行っています。私は今はそういう時代やから仕方がないと思いますし、時代が変ればまた小売店が盛り返してくることもあるかもしれないと思っています。駅周辺も地下鉄の駅ができて、おおさか東線もできました。JR 鳴野駅は僕が中学生の頃とでは想像つかないぐらい変わっています。これからも時代に沿った街づくりがされていくと思います。



お話にでていた慰霊祭参加の記事
(読売新聞 2022年8月15日)

出会いは 15 センチから始まった

和田 数子

こちらの部屋に住んでいるのが M さん。ほとんど部屋から出て来られないので、滅多に会えない方だと紹介された。理事長がノックして声をかけると 15 センチほど引き戸が開いて M さんが顔を見せてくれた。「M さんです。和田と言います。一階でお世話になっています。よろしくお願いします」とご挨拶するとニコッとされた。小柄で線の細い印象を受けた。感情の細やかな方なのだろう。記録を見ると作業所はおろか通院も滞りがちの様子。いつか二人でお茶を飲みながら新聞など読んで差し上げられたらいいのになと、頭の隅に小さな命題が生まれた。毎日わからないことの連続で、いつの間にか5月になった。時々二階へ上がっていくスタッフの方とお会いするが、M さんにはなかなか会えない日々が続いた。

そんなある日「ふらっと」の前に、からあげとポテトフライ、フランクフルトとソフトクリームの屋台がたち、こどもの日のイベントが行われた。声かけの絶妙なスタッフがいて、フランクフルトの好きな M さんがご自分で好物を買いに降りて来られた。私も楽しくてケチャップをのせて、「カラシはつけますか？」などと聞いてみた。100 円を支払いご満悦。「これ好きやねん」と教えてくれた。誰しも好きなものの誘惑には勝てません。

これがきっかけで時々声をかけさせてもらえるようになった。野球の話をするようになり、私が野球をほとんど知らないことが分かれると、M さんはパリーグやセリーグ球団のマスコットの種類や試合の結果などを教えてくれるようになった。暑くなった頃には散髪に行けた。かき氷を作ったら美味しかったと喜んでくれた。作業所から仕事を運んでもらって部屋で作業をされていた。どんな仕事か興味があったので、お部屋を訪ねると作業内容を説明してくれた。ピンクのヘアカーラーを「これ可愛いやろ」と手を止めて見せてくれた。「ほんとだ。いろんな仕事があるんですね」と感心したところで、七夕の短冊に『給料が上がりますように』と二人で書くことにした。M さんには心を許せるヘルパーさんがいて、その方が担当する日をととても楽しみにしている。最近彼女に教えていただくことや連携ができて、会話や笑い声が増えたと思う。

私が来るのを待ち構えていて、一緒にお茶を飲みながらスポーツ新聞の一番面白いところを読んでと指差してくれる。ご贔屓のチームが勝っても負けても話題は尽きない。夏の高校野球は対戦表をレポート用紙やノートに書いて私に説明してくれた。

今年はちょっと野球にうるさくなった和田です。



イベントポスター、配布チラシ



ANNIVERSARY

10周年の感謝を込めて

10/24(月)～10/28(金)

700円以上のご飲食、テイクアウトで
豪華景品が当たるくじ引き抽選会
はずれなし 1日先着30名様

- | | | |
|--------------|------------------|----------------|
| 1等 土曜御膳無料券 | 4等 お弁当券(ご飯、味噌汁付) | 7等 ケーキ or ドリンク |
| 2等 そうそう米 2kg | 5等 季節の野菜 | 引換券(350円分) |
| 3等 日替わり御膳無料券 | 6等 発酵卵無料(店内飲食専用) | 8等 米粉クッキー |



鳴野東で人気の、からだに嬉しいスイーツショップ
「Lianの杜」の発酵食スイーツを限定販売します

シフォンケーキ	100円	動物ウッキー	100円
あんぱん	80円	ガトーショコラ	200円
クリームあんぱん	100円	キャラメルプリン	150円

鳴野東商店街「杜のどっかやまん」も同時並行で
スヌーピーの雑貨も販売します♡
主催・社会福祉法人そうそうの杜



第2回

路上作品展

大阪市城東区南しぎの商店街にて開催

展示期間 2022年10月17日～10月28日

表彰式 10月28日15時

鳴野エリア活性化プロジェクト

主催 社会福祉法人そうそうの杜

後援 南しぎの商店会 城東地域活動協議会

寄付にご協力いただきありがとうございます

社会福祉法人そうそうの杜では、当法人の理念や事業、目的に賛同される方、事業活動へのご支援をいただける方に寄付をお願いしています。書面にて大変失礼かとは存じますがお力添えくださいますようお願い申し上げます。ご支援いただいた寄付金につきましては、大切に使用させていただきます。また、寄付をしていただいた皆様には機関紙「想創奏」をお送りします。

寄付の方法は、以下の郵便振替口座にて御振込いただきますようお願いいたします。今後ともご支援、ご協力いただきますように、法人として努力して参りますのでよろしくお願いいたします。

ゆうちょ銀行 口座番号：00940-5-185986

振込先（加入名）：そうそうの杜

一般寄付（2022年6月10日～2022年9月26日にご支援頂いた方）

池田 勉、奥野 正継、国本 光子、倉川 俊介、高見 浩子、竹中 康豊、竹林 秀規、谷本 利雄、中島 伸治、藤井 智恵美、村津 和雄、森 貴宏、吉田 昭子、村田デンタルラボラトリー

（敬称略）

その他、地域の方々にアルミ缶・牛乳パック・おもちゃ、古本、中古家具等、様々な物品のご寄付を頂いておりますことを、心より感謝申し上げます。いつも本当にありがとうございます！！





社会福祉法人そうそうの杜

■ 法人本部

城東区鳴野東3-2-26 Tel/06-6965-7171 Fax/06-6167-2622

■ 地域生活支援センターあ・うん（相談支援事業）

Tel/06-6965-7171 Fax/06-6167-2622

■ 伝（児童発達支援・放課後等デイサービス）

Tel/06-6955-8070

■ 北部地域センター（大阪市障がい者就業・生活支援センター）

Tel/06-6955-9921 Fax/06-6167-2622

■ 杜のShokudo Lianの杜 杜のざっかやさん（就労継続支援B型）

Tel/06-6955-8080 Fax/06-6167-2622

■ とことこっと（居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援・訪問介護）

城東区中央1-6-28 Tel/06-6167-7530 Fax/06-6955-8826

■ 庵（生活介護）

城東区中央1-6-23 Tel/06-6935-0909

■ げんげん（生活介護）

城東区鳴野東3-18-5 Tel/06-6180-9670

■ 創奏（生活介護）

城東区鳴野東3-3-1 Tel/06-6923-8929

■ Kawasemi（就労継続支援A型）

城東区中央1-6-29 Tel/06-6935-1111 Fax/06-6935-1911

■ 座座（就労継続支援B型）

城東区鳴野東3-2-12 Tel/06-4258-6013

■ つむぎ館（就労継続支援B型）

城東区鳴野東3-2-26 Tel/06-6180-6820

■ Prife（就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援）

城東区東中浜2-2-19 Tel/06-6923-8959（住所、電話番号変わりました）

■ いま福の家（地域密着型・介護予防型通所サービス/共生型生活介護）

城東区今福南4-15-33 Tel/06-6180-7399

■ 添（短期入所）

城東区鳴野東3-2-5 Tel/06-6167-5395

■ 杜のこうさてん（大阪市つどいの広場事業）

城東区鳴野東3-3-3 Tel・Fax/06-6961-5505

